

平成 16 年度高次脳機能障害支援モデル事業年次報告 (地方支援拠点機関等連絡協議会)

高次脳機能障害支援モデル事業について

1. 基本的な考え方

交通事故やスポーツ事故等による外傷性脳損傷や低酸素脳症等による脳損傷を受けた者のうちには、後遺症として記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害を呈することにより生活機能が著しく障害された者があり、これらを行政的に高次脳機能障害者と位置付けた。身体障害が軽微に留まる場合、このような脳機能の障害を持つ者については、障害者として認知されにくく、福祉サービスの提供を適切に受けることができないとされた現状が、平成 13 年度から 5 か年の予定で実施される高次脳機能障害支援モデル事業の前期 3 年間を通じて明らかにされ、これに適切に対処するために行政的な「高次脳機能障害診断基準」、「高次脳機能障害標準的訓練プログラム（案）」「高次脳機能障害標準的社会復帰・生活・介護支援プログラム（案）」が作成された。

これを受けて、国立身体障害者リハビリテーションセンター（以下国リハ）とこの問題に積極的に取り組んでいる地方支援拠点機関等が連携し、平成 16 年度及び 17 年度の後期 2 年間において、前期 3 年間で集積された経験を生かして高次脳機能障害者の「社会復帰支援」と「生活介護支援」を重点においた事業を実践することにより、得られた成果を基にして全国に普及可能な支援体制の確立を図る。本事業は、この活動により高次脳機能障害者の保健医療福祉に寄与することを目的とする。

2. 平成 16 年度（4 年度）事業内容

- ア. 国リハと北海道・札幌市、宮城県、千葉県、埼玉県、神奈川県、岐阜県、三重県、大阪府、岡山県、広島県、福岡県・福岡市・北九州市、名古屋市の 12 地域にわたる道府県・政令指定都市にある地方支援拠点機関等は連携して、高次脳機能障害者の「社会復帰支援」や「生活・介護支援」の試行的実践をなした。高次脳機能障害者に対する適切な福祉サービスの提供を目論んで各地域ごとに支援センターを設置し、そこに支援コーディネーターを配置した。対象者は 16 年度の新規登録者が 61 名、前年度以前からの既存登録者が 133 名で、合計 194 名であった。
- イ. 試行的実践を円滑かつ効果的に行なうために、都道府県・政令指定都市ならびに支援拠点機関等の関係者、専門職員、学識経験者等で構成される連絡調整の場としての地方支援拠点機関等連絡協議会ならびに作業班会議が国リハを中心として開催された。作業班は前期 3 年間に設置された 4 班を廃し、事業の一層の推進のために企画班、専門委員班、支援コーディネーター班の 3 班を新たに設置した。16 年度からは障害者団体から 3 名が地方支援拠点機関等連絡協議会委員として加わった。
- ウ. 国リハは、アの地方支援拠点機関等と連携して、地域での支援ネットワーク形成の状況と症例とその訓練ならびに支援サービスの実施状況について調査を進めた。その成果については公開シンポジウ

ム「地域における高次脳機能障害者の支援」を開催することにより公表した。

3. 平成 16 年度事業費

高次脳機能モデル事業	103,838 千円
国リハ実施分	23,838 千円

4. 地方支援拠点機関等連絡協議会委員（別添 1 参照）

- 委員長：岩谷 力（国リハ更生訓練所長）
- 企画班長：岩谷 力（国リハ更生訓練所長）
- 専門委員班長：中島八十一（国リハ研究所感覚機能系障害研究部長）
- 支援コーディネーター班長：寺島 彰（浦和大学教授）
- 委員総数：60 名

5. 地方支援拠点機関等連絡協議会、作業班会議及びシンポジウム実施状況

会議名称	開催日	開催場所	出席委員数	オブザーバー出席数
第1回連絡協議会	平成16年8月5日	福祉医療機構	54名	20名
第2回連絡協議会	平成17年2月4日	戸山サンライズ	51名	19名
第 1 回企画班会議	平成16年8月5日	福祉医療機構	12名	—
第2回企画班会議	平成17年2月4日	戸山サンライズ	11名	—
第1回支援コーディネーター班会議	平成16年8月5日	福祉医療機構	26名	—
第2回支援コーディネーター班会議	平成16年10月1日	国立身障者リハセンター	32名	—
第3回支援コーディネーター班会議	平成17年2月4日	戸山サンライズ	26名	—
第1回専門委員班会議	平成16年8月5日	福祉医療機構	13名	—
第2回専門委員班会議	平成17年2月4日	戸山サンライズ	11名	—
公開シンポジウム：地域における高次脳機能障害者の支援	平成17年2月3日	戸山サンライズ	104名	—

6. 高次脳機能障害支援モデル事業登録者（16年度末）

道府県別登録者数：カッコ内は16年度新規登録者数

	登録者数
国リハ	6 (6)
北海道・札幌市	33 (8)
宮城県	12 (1)
千葉県	16 (1)
埼玉県	3 (3)
神奈川県	24 (11)
岐阜県	6 (0)
三重県	9 (7)
大阪府	5 (4)
岡山県	8 (7)
広島県	33 (1)
福岡市・福岡市・北九州市	15 (6)
名古屋市	24 (6)
計	194 (61)

別添1 地方支援拠点機関等連絡協議会委員名簿

都道府県等	氏名	所属
北海道 札幌市	生駒 一憲	北海道大学大学院
	堀 享一	北海道大学医学部附属病院
	宮崎 利千子	〃
宮城県	遠藤 実	東北厚生年金病院
	奥野 備子	〃
	佐藤 美穂	高次脳機能障害者を支援する会
埼玉県	堀江 明	埼玉県総合リハビリテーションセンター
	廣岡 享	〃
	原田 実	〃
千葉県	大賀 優	千葉県千葉リハビリテーションセンター
	太田 令子	〃
	三須 正	〃
神奈川県	大橋 正洋	神奈川県総合リハビリテーションセンター
	生方 克之	〃
	岡本 朗	七沢第一、第二更生ホーム
岐阜県	篠田 淳	木沢記念病院
	槇林 優	〃
	宇津山 志穂	〃
三重県	太田 喜久夫	松坂中央総合病院
	白山 靖彦	三重県身体障害者総合福祉センター
	傍島 康氏	〃
大阪府	足立 達也	大阪府立身体障害者福祉センター
	鈴木 明善	〃
	辻本 幹雄	〃
岡山県	椿原 彰夫	川崎医科大学附属病院
	種村 純	川崎医療福祉大学
	後藤 祐之	社会福祉法人 旭川荘
広島県	丸石 正治	広島県立身体障害者リハビリテーションセンター
	小家石 龍次	〃
	百川 晃	〃
福岡県 北九州市 福岡市	岡本 浩二	福岡県保健福祉部
	野田 雅美	産業医科大学病院
	安野 敦子	福岡市立心身障害福祉センター

名古屋市	尋木 佐一	名古屋市総合リハビリテーションセンター
	阿部 順子	〃
	長谷川 真也	〃
学識経験者	金澤 一郎	国立精神・神経センター
	重森 稔	久留米大学
	蜂須賀 研二	産業医科大学
	樋田 精一	国立精神・神経センター武蔵病院
	長岡 正範	順天堂大学大学院
	寺島 彰	浦和大学
	加藤 元一郎	慶応義塾大学
	深津 玲子	国立病院機構宮城病院
	田谷 勝夫	障害者職業総合センター
	種村 純	川崎医療福祉大学
当事者団体	東川 悦子	日本脳外傷友の会
	鈴木 照雄	高次脳機能障害者と家族の会
	田辺 和子	高次脳機能障害を考える「サークルエコー」
国	山崎 晋一郎	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部
	渡邊 雅浩	〃
	内田 玄祥	〃
	岩谷 力	国立身体障害者リハビリテーションセンター
	片石 修三	〃
	山内 保孝	〃
	中島 八十一	〃
	三輪 隆子	〃
	森田 稲子	〃
	菅原 美杉	〃
	菅野 博也	〃

平成16年度学識経験者委員名簿

金澤 一郎 (国立精神・神経センター)

樋田 精一 (つるい養生邑病院)

重森 稔 (久留米大学)

長岡 正範 (順天堂大学)

蜂須賀 研二 (産業医科大学)

寺島 彰 (浦和大学)

加藤 元一郎 (慶應義塾大学)

深津 玲子 (国立病院機構宮城病院)

田谷 勝夫 (障害者職業総合センター)

岩谷 力 (国リハ)

山崎 晋一郎 (厚生労働省)

渡邊 雅浩 (厚生労働省)

内田 玄祥 (厚生労働省)

片石 修三 (国リハ)

山内 保孝 (国リハ)

中島 八十一 (国リハ)

長岡 正範 (学識経験者)

寺島 彰 (学識経験者)

大橋 正洋 (神奈川県)

阿部 順子 (名古屋市)

樋田 精一 (学識経験者)

別添4 地方支援拠点機関等連絡協議会作業班班員名簿

企 画 班	支援コーディネーター班		専 門 委 員 班
<u>岩谷 力</u> (医師) <u>山崎晋一郎</u> (医師)	<u>寺島 彰</u> (教授) <u>山内 保孝</u> (CW)		<u>中島八十一</u> (医師) <u>長岡正範</u> (医師)
渡邊雅浩 (専門官)	北海道	堀 享 一 (PT) 宮崎利千子 (MSW)	大橋正洋 (医師) : 評価
内田玄祥 (専門官)	宮城県	奥野備子 (看護師) 佐藤美穂 (ケアマネージャー)	重森 稔 (医師) : 評価
片石修三 (事務官)	埼玉県	廣岡 亨 (CW) 原田 実 (CW)	加藤元一郎 (医師) : 評価
山内保孝 (CW)	千葉県	太田令子 (心理発達治療士) 三須 正 (生活支援員)	深津玲子 (医師) : 評価
中島八十一 (医師)	神奈川県	生方克之 (MSW) 岡本 朗 (更生施設指導員)	種村 純 (ST) : 評価
長岡正範 (医師)	岐阜県	榎林 優 (PT) 宇津山志穂 (臨床心理士)	長岡正範 (医師) : 訓練
寺島 彰 (教授)	三重県	白山靖彦 (MSW) 傍島康氏 (生活指導員)	蜂須賀研二 (医師) : 訓練
大橋正洋 (医師)	大阪府	鈴木明善 (CW) 辻本幹雄 (CW)	樋田精一 (医師) : 訓練
阿部順子 (臨床心理士)	岡山県	種村 純 (ST) 後藤祐之 (支援員)	阿部順子 (臨床心理士) : 訓練
樋田精一 (医師)	広島県	小家石龍次 (事務官) 百川 晃 (CW)	三輪隆子 (医師) : 訓練
	福岡県	野田雅美 (MSW) 安野敦子 (OT)	森田稲子 (OT) : 訓練
	名古屋市	阿部順子 (臨床心理士) 長谷川真也 (SW)	田谷勝夫 (研究員) : 訓練
	国リハ	菅原美杉 (MSW) 菅野博也 (心理判定専門職)	

※班長は〇〇〇〇〇〇、副班長は〇〇〇〇〇〇で記した者。

別添5 地方支援拠点機関等一覧

	地方支援拠点機関等名称	連絡先住所	電話番号
北海道・札幌市	北海道大学医学部附属病院	札幌市北区北14条西7丁目	011-716-1161
宮城県	東北厚生年金病院	仙台市宮城野区福室1-12-1	022-259-1221
埼玉県	埼玉県総合リハビリテーションセンター	上尾市西貝塚148-1	048-781-2222
千葉県	千葉県千葉リハビリテーションセンター	千葉市緑区誉田町1-45-2	043-291-1831
神奈川県	神奈川県総合リハビリテーションセンター	厚木市七沢516	046-249-2652
岐阜県	木沢記念病院	美濃加茂市古井町下古井590	0574-25-2181
三重県	三重県身体障害者総合福祉センター	津市一身田大古曾670-2	059-231-0155
大阪府	大阪府立身体障害者福祉センター	堺市旭ヶ丘中町4-3-1	0722-44-8000
岡山県	川崎医科大学医学部附属病院	倉敷市松島577	086-462-1111
広島県	広島県立身体障害者リハビリテーションセンター	東広島市西条町田口295-3	0824-25-1455
福岡県・福岡市・北九州市	産業医科大学病院	北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1	093-603-1611
名古屋市	名古屋市総合リハビリテーションセンター	名古屋市瑞穂区弥富町字密柑山1-2	052-835-3811
国	国立身体障害者リハビリテーションセンター	所沢市並木4-1	04-2995-3100

平成 16 年度高次脳機能障害支援モデル事業 年次報告 (国立身体障害者リハビリテーションセンター)

1. 平成 16 年度（4 年度）事業内容

- ア. 国リハは、地方支援拠点機関等連絡協議会の高次脳機能障害支援モデル事業運営方針に則り、全国高次脳機能障害支援拠点センターとして、自ら症例を集積し、訓練及び支援の実施について事例収集を進めるとともに支援プログラムの拡充を図り、全国 12 地域の道府県・政令指定都市（北海道・札幌市・宮城県、千葉県、埼玉県、神奈川県、三重県、岐阜県、大阪府、岡山県、広島県、福岡県・福岡市・北九州市、名古屋市）にある地方支援拠点機関等と連携して、高次脳機能障害者の「社会復帰支援」や「生活・介護支援」を重点事項として事業を運営した。
- イ. 試行的実践を円滑かつ効果的に行なうために、都道府県・政令指定都市ならびに地方支援拠点機関等の関係者、専門職員、学識経験者等で構成される連絡調整の場として地方支援拠点機関等連絡協議会ならびに 3 作業班会議を国リハが中心となって開催した。加えて公開シンポジウム「地域における高次脳機能障害者の支援」を開催した。
- ウ. 国リハの単独の事業として、情報収集提供センターの運用と研修事業を実施した。情報収集提供センターは、高次脳機能障害について関連職種にある者や当事者等が広く情報を共有することを目的として、モデル事業のホームページを国リハのホームページの中に設置し、その中で成果報告書等の主要部分を公開し、地方支援拠点機関等連絡協議会等、研修事業の案内等を表示した（16 年度アクセス件数：37,459 件）。また研修事業については、行政担当者と医療並びに福祉専門職向けの研修が各 1 回計 2 回実施された。

2. 高次脳機能障害支援モデル事業地方支援拠点機関等連絡協議会委員名簿（国リハ分）

- 委員長：岩谷 力（更生訓練所長）
企画班長：岩谷 力（更生訓練所長）
専門委員班長：中島八十一（研究所感覚機能系障害研究部長）
委員：岩谷 力（更生訓練所長）
委員：片石修三（管理部長）
委員：山内保孝（更生訓練所指導部長）
委員：三輪隆子（病院神経内科医長）
委員：森田稲子（病院作業療法士長）
委員：菅原美杉（病院主任医療社会事業専門職）
委員：菅野博也（更生訓練所心理専門判定職）

3. 国リハ内モデル事業作業部門編成

高次脳機能障害支援モデル事業を推進するため、前年度に引き続き関連部門の職員で構成する高次脳機能障害支援モデル事業検討委員会を運営した。円滑なる事業実施に向け、企画作業部会、評価基

準作業部会、訓練プログラム作業部会、社会復帰支援プログラム作業部会、研修作業部会、情報収集・提供センター作業部会を運営した。企画作業部会は当センター内モデル事業遂行に必要な企画に関することを所掌とし、これを受けて各作業部会はそれぞれの課題に取り組んだ。また病院部会と更生訓練所部会ならびに両者の調整機関である高次脳機能障害連絡会議は協調して事業遂行に当たった。

4. 国リハ内高次脳機能障害支援モデル事業検討委員会及び作業部会委員

ア. 高次脳機能障害支援モデル事業検討委員会委員

委員長：岩谷 力

病 院：佐久間 肇、三輪隆子、浦上裕子

更生訓練所：山内保孝、高橋久雄、菊入 昭、山添秀次、杉原憲明

研究所：中島八十一、柳田次男

学 院：青木 実

管理部：片石修三、湯澤茂男

イ. 作業部会委員

(企画作業部会) 岩谷 力、山内保孝、関 寛之、堀 房子、中島八十一、三輪隆子、菅原美杉、菅野博也

(評価基準作業部会) 中島八十一、浦上裕子、佐久間 肇、小熊順子、森田稲子、四ノ宮美恵子

(訓練プログラム作業部会) 三輪隆子、杉原憲明、菊入 昭、小田島 明、

渡邊明夫、餅田亜希子、関口 進、山本正浩、土屋和子

(社会復帰プログラム作業部会) 高橋久雄、山添秀次、菅野博也、小松原正道、渡邊雅浩、

秋山静江、菅原美杉、北村昭子

(研修作業部会) 牛山武久、湯澤茂男、青木 実

(情報収集・提供センター作業部会) 山内 繁、柳田次男、中島八十一

(事務局：医事管理課) 中口 豪、堀内秀一郎

5. 平成 16 年度事業費

国リハ事業実施分：23,838 千円

6. 国リハ分モデル 16 年度事業登録者一覧

総数	合計	6
	男性	6
	女性	0
所属	病院	0
	更生訓練所	6
原因疾患の内訳	脳血管障害	0
	外傷性脳損傷	6
	低酸素脳症	0
手帳所持	身体障害者手帳	5
	精神障害者保健福祉手帳	1
	なし	0

すべて新規登録者であった。

7. 病院部会

ア. 病院作業部会会議 計 11 回開催

イ. 相談業務

医療福祉相談室に支援コーディネーター1名設置（主任 MSW の兼務）

相談件数 358 件（相談者の居住地は、東京都、埼玉県が過半数を占めるが、北海道から沖縄まで 33 県と広範囲であった。）

ウ. 高次脳機能障害外来

平成 16 年 9 月から神経内科の特殊外来として高次脳機能障害外来を開設した。

実施日 毎週火曜日午後、水曜日午前（完全予約制 定員各 3 名）

受診者 62 名（平成 16 年 9 月-平成 17 年 3 月）

エ. 高次脳機能障害リハビリテーションの実施

高次脳機能障害診断基準を満たす入院患者 65 名に、医学的リハビリテーションを実施した。

前年度までのモデルスケジュール A、B は、高次脳訓練プログラム A、B と改名。

高次脳プログラム A を 10 名に実施した。

オ. 家族支援

① 家族学習会の実施（付表 1 参照）

② 家族向けパンフレットの改訂（パンフレット小委員会）

前年度作成したパンフレット「高次脳機能障害について理解を深めていただくために」の内容の充実を図った（平成 17 年 3 月発行）。

③ 家族支援のあり方の検討（家族支援小委員会）

日常診療、相談内容、家族学習会などから家族のニーズを抽出し、リハ病院における家族支援方法を検討した。

8. 更生訓練所部会

ア. 更生訓練所の高次脳機能障害者に対する支援体制の強化、整備

① 相談判定課に支援コーディネーターを 1 名配置

② 高次脳機能障害者への理解と一連の実践体制の強化を図るため、職員研修会を 11 回実施

③ 高次脳機能障害コースを新設するとともに、身体障害者手帳のない高次脳機能障害者の受け入れに関して、病院と更生訓練所の連携強化を図る。

④ 高次脳機能障害モデル事業推進のための更生訓練所要領、支援の流れ図、重要事項説明書、利用契約書の作成（付表 3 参照）

イ. 支援状況

① 高次脳機能障害者の相談業務

相談件数 約 30 数件、高次脳機能障害を併せ持つ者 約 100 件

② 高次脳機能障害と診断された入所者 22 名、高次脳機能障害の疑いがある入所者 14 名、合計 36

名に訓練実施

- ③ 身体障害者手帳のない高次脳機能障害者 1 名の訓練受け入れ、1 名の入所評価を実施（次年度訓練受け入れ予定）
- ④ 職業・職能訓練、生活訓練、認知訓練、補償手段の獲得等のための訓練を行った。
- ⑤ モデル事業の新規登録者 6 名

ウ. 研修・研究協力

- ① 高次脳機能障害者の支援についての啓蒙を図るため、東京都身体障害者福祉司会の研修会「高次脳機能障害者の支援について」（約 90 名）を開催
- ② 高次脳機能障害支援ニーズ判定表の利用に関する研究に協力
- ③ 高次脳機能障害者のケアニーズに関するアンケート及び面接調査研究に協力

9. 研修作業部会

高次脳機能障害支援モデル事業の一環として、高次脳機能障害者の診断、評価、リハビリテーション、支援など関連する諸問題について、都道府県・政令指定都市における行政担当者、関係機関の担当者（病院の医師及び関係する職種並びに福祉施設の担当者等）が必要な知識と技術を習得することを目的として、平成 16 年度に 2 回の研修会を開催した（付表 2 参照）。

10. 情報収集・提供センター作業部会

高次脳機能障害に関する情報及び知識を周知するとともに、広く共有することを目的としてホームページを運用した。内容は随時更新中である。

HP アドレス：<http://www.rehab.go.jp/ri/brain/index.shtml>

（付表 1）高次脳機能障害者のご家族のための学習会

	開催日	開催場所	参加者
第 1 回：退院後の諸問題と家族の役割	平成 16 年 5 月 20 日	国リハ本館大会議室	16 名
第 2 回：高次脳機能障害とそのリハビリテーションについて	平成 16 年 7 月 15 日	国リハ本館大会議室	17 名
第 3 回：退院後の諸問題と家族の役割	平成 16 年 9 月 30 日	国リハ本館大会議室	18 名
第 4 回：高次脳機能障害とそのリハビリテーションについて	平成 16 年 11 月 25 日	国リハ本館大会議室	14 名
第 5 回：退院後の諸問題と家族の役割	平成 17 年 1 月 20 日	国リハ本館大会議室	17 名
第 6 回：高次脳機能障害とそのリハビリテーションについて	平成 17 年 3 月 17 日	国リハ本館大会議室	8 名

（付表 2）高次脳機能障害支援モデル事業研修会

	対象者	開催日	開催場所	参加者
第 1 回	行政職	平成 16 年 7 月 29 日及び 30 日	国リハ学院大会議室	55 名
第 2 回	専門職	平成 17 年 2 月 23 日-25 日	国リハ学院大会議室	予定